

NEW CHALLENGE

世界展開力強化事業採択で  
中南米との交流が活発に

2015年度「大学の世界展開力強化事業（中南米との大学間交流形成支援）」に、筑波大学の「持続的な社会の安全・安心に貢献するトランスパシフィック協働人材育成プログラム」が採択された。ブラジル・サンパウロ大学、チリ大学、ペルー・カトリカ大学、メキシコ大学院大学、コロンビア・ロスアンデス大学と連携し、初年度は5名、2年目以降は12名の学生を相互に派遣・受け入れる。日本と中南米の次世代を担う若者たちが、共有する社会的課題への協働実践を展開。両地域の架け橋の強化を目指している。



■大学DATA

【学群】人文・文化学群 / 社会・国際学群 / 人間学群 / 生命環境学群 / 理工学群 / 情報学群 / 医学群 / 体育専門学群 / 芸術専門学群  
 【大学院研究科】教育研究科 / 人文社会科学研究科 / ビジネス科学研究科 / 数理物質科学研究科 / システム情報工学研究科 / 生命環境科学研究科 / 人間総合科学研究科 / 図書館情報メディア研究科 / グローバル教育院  
 【学生数】16,472人（2015年5月1日現在）

北海道・東北

関東甲信越

東海・北陸

近畿

中国・四国

九州

国立

公立

私立



比較文化学類4年  
堀内菜さん

study abroad

ASIP  
参加学生の声

留学を通して  
研究の方向性が明確に

まずは3年次の7月から5週間、チュニジアのエルマナール大学に留学し、アラビア語を勉強しました。ヨーロッパからの留学生が多い多国籍環境のもとで、英語、フランス語も交えてコミュニケーションを図り、積極性が養われました。

同じく3年次3月からは、ASIPの海外英語短期研修で、香港に2週間滞在しました。香港中文大学の授業に参加、二週間の研修についてディスカッションしました。現地の学生の方が私よりも日本語をよく知っていることにびっくりし、もっと日本の社会状況をきちんと説明できるようにならなければいけないという思いが湧きました。

事前教育として、ASIPの学生向けの「グローバルサウス科目」も開講されています。私は、海外で活躍中の社会人を招いてオムニバス形式で行われる「新興国経済論」などを受講し、視野が広がりました。

留学の最大の成果は研究の方向性が明確になったこと。「アラブの春」以降の中東・北アフリカの政策に興味が生まれ、卒論のテーマにはチュニジアの女性に関する近代化政策を選びました。大学院進学後は、1年間、モロッコのアル・アハワイン大学に留学予定で、モロッコの政策についても研究を進めるつもりです。



人文学類4年  
芹川次竜さん

study abroad

ASIP  
参加学生の声

授業のほかに日系企業見学、  
現地学生との交流も充実

3年次の2月から3週間、カザフスタンのカザフ国立大学でのASIP海外ロシア語短期研修に参加しました。ロシア語の「会話」「文法」「文学」や「カザフ語」の授業を受講したのですが、レールモントフの作品をテキストとする「文学」の授業に苦労しました。詩が混じった難解な文章で、そのため、休日も頑張って予習・復習に費やしました。

ASIPの留学プログラムの魅力は、授業だけでなく多彩な活動が用意されていることです。この短期研修でも三菱商事などの現地日系企業を訪問し、働いている方々話を聞くこともできました。

カザフ国立大学で日本語を学んでいる現地学生との交流も活発で、一緒にアルマトイの美しい山岳地帯を観光したことは、いい思い出でした。私は、文化人類学を専攻しており、以前から市（いち）に興味がありました。そこで、研修中はカザフスタンの3カ所のバザールを巡りました。現在、卒論では、上野のアメ横をフィールドに研究を進めています。再びカザフ国立大学に留学。たくさんの方から人々が集まるカザフスタンのバザールの魅力とは何か、そこでどのような人間関係が生まれているのか、研究を深めたいと考えています。



2015年9月、ホルダー大学、国立台湾大学とのキャンパス・イン・キャンパス調印式の模様。



留学希望者への情報提供や、外国人留学生との交流の場として活用されている「グローバル・コモンス機構」。

筑波大学

UNIVERSITY OF TSUKUBA

新興国との共生を担う  
人材を育てる「ASIP」

筑波大学では、すでに数多くの留学プログラムが設けられている。いずれもハイレベルな内容を誇る。例えば、文部科学省「グローバル人材育成推進事業」の採択を受けてスタートしたのが「地域研究イノベーション」学位プログラム（ASIP）だ。3年次より参加する学生が、自分で興味を持った地域をひとつ選択し、現地語の修得のほか、当該地域の文化、社会などを体系的に修得した後、大学院で1年間現地に留学する。5年間で修士課程を修了可能な点も魅力だ。

「留学先は新興国に限定しています。人口減少で日本のマーケットが縮小していく中、日本企業の生き残りの鍵を握るのが、台頭する新興国との関係強化だと考えているからです。いわゆる語学研修レベルではなく、大学院生が自分なりの研究テーマを持ち込み、フィールド調査を行い、現地の教員、学生と議論し、自らの仮説を検証していきます。将来、現地の人々と共生し、フロンティア市場を切り拓く人材が育つプログラムだと確信しています」と、人文社会系グローバル人材育成教育プログラム運営委員長の遅野井茂雄教授は自信を見せる。

また、文部科学省では2011年度から、海外大学との国際教育連携を支援する「大学の世界展開力強化

世界展開力強化事業の  
斬新なプログラム

そのひとつが「日独韓共同修士学位プログラム」だ。韓国の高麗大学校、ドイツのボン大学と連携し、半ごとに3か国を移動し、2大学の学位が取得できるデュアルディグリープログラムだ。「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム」は、ロシア語圏諸国の大学に留学し、語学学習のほか、インターンシップで実務能力の強化を図る。

「留学を経験した学生はたくましく成長しています。ぜひこの質の高いプログラムに意欲的に挑戦してほしい」と、遅野井教授は語っている。



「質の高い留学プログラムが豊富」と語る遅野井茂雄教授。



メキシコ大学院大学におけるASIP生のスペイン語によるプレゼンテーション（平成26年度ASIP海外短期研修）。